



日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3802-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

第10回通常総会 堀江会長から数原会長へ

本工業会は5月17日、上野精養軒にて「第10回通常総会」を開催しました。役員任期満了に伴う改選の結果、新会長に数原英一郎筆頭副会長が選任されました。

総会・懇親会での前会長、新会長のご挨拶を紹介します。

<堀江圭馬前会長>

本工業会の会長に就任して2年になりますが、何とか職責を全う出来たのは、ひとえに会員の皆様のご支援ご協力があったことと、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

筆記具業界の総需要は、2009年はリーマンショックによる世界的不況の影響をまともに受け、対前年約200億円16%のマイナスと言う大変厳しい結果でした。翌2010年は、筆記具の生産・販売は世界不況の波から抜け出し、97億円9.2%増という急激な回復を見せました。2011年もこの勢いでリーマンショック以前の状態にまで回復していくことが期待されます。

石川前会長が基礎を築かれた書育活動ですが、現在『書育教材』は多くの学校関係者に活用頂いており、優秀な実践例を称える『書育実践賞』も創設することができました。お陰さまで、書育活動も一つの節目を迎えることが出来たと感じております。

3月11日に発生した巨大な災害は日本の国難ともいえるべき大損害を全国にもたらしました。被災された皆様、被害に遭われた関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。本工業会でも会員の皆様のご厚意を受け、被災地への筆記具支援を国と各県の教育委員会に申し入れているところでございます。一日も早い経済復興にお役立ちできればと考えています。

筆記具工業会も今年10月で設立10周年という節目を迎えます。今迄の活動を振り返ります



と、国際会議でのISO規格の提案、中国を始めとした模造品対策の啓発活動、クレマー対策やお客相談情報の共有化など、タイムリーな問題に意欲的に取り組み、活発な活動で業界の活性化に大きな成果を上げたと言えます。

次の10年間では新しいビジョンのもと、筆記具業界の発展、活性化を目指していきたいと思っておりますので乞うご期待を頂きたいと思っております。

2年間の皆様方の温かいご支援に深く感謝を申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。どうも有り難うございました。

<数原英一郎新会長>

筆記具工業会も発足から10年が経ち堀江前会長や会員皆様のご協力を得て、会の形も固まってきた。その間世の中の環境もかわってきているし、会員各社自体も変化している。

皆様のご意見を伺いながら会の活動に取り組んでいきたい。

10年前会長として挨拶した際、筆記具工業会としての使命は3つほどあるのではないかと申し上げた記憶がある。

- ① 高い教育レベルを持つ国は、必ず高い水準の筆記具がある。
レベルの高い筆記具を作ることにより、知的生産性に寄与する立場にある。



- ② 各メーカーほぼ売上の半分が輸出である。
外貨を獲得するという意味でも国家的戦略に寄与する。
- ③ 世界で見ても付加価値のある新商品を作り続けているのは日本くらいである。
今後も、付加価値の創造をしていかなければならない。

10年たった現在でもこの3点はさほど変化はないと思われるが、今回の大震災で環境は様変わりしたのではないか。

今までは日本ブランド神話に随分助けられていたのではないか。

(ヘラルドトリビューン紙の白雪姫の漫画の話)
信頼を築くのは長い道のりで、壊すのは簡単である。この先をなんとか乗り越えて行くという責務は、一企業や一業界でできるものではないが、意識してこの先を乗り越えていくしかないと考えている。

EWIMA(欧州筆記具工業会)技術委員会 出張報告

2011.01.29~02.02 ドイツ・フランクフルトにて

報告:塩井恵子(国際標準提案事業委員長)

平成23年1月29日から2月2日までドイツ フランクフルトにISO活動の一つとして、ペンてる伊波氏と私の2名で出張しましたので報告致します。主たる目的は、EWIMA 技術小委員会で、安全キャップと尾栓に関するISO規格をBS規格と同じにしたいというイギリス案に対する日本の意見を発表し、このテーマに関心を持ってもらうことと、日本の意見に同調してくれる国を増やすことでした。

会議の前日に、EWIMA 事務局(Mr. Meller, Mr. Weiss, Dr. Pfeffer の3名)を訪問し、意見交換を行いました。日本の意見について、14歳以下の子供用ペン向けの安全規格であることを維持したいということ、レフィル交換タイプやインキ再充填タイプのペンは安全尾栓からは外したいという件については理解できるとのことでしたが、尾栓規格で新たに長い尾栓の免除を加えたい



ことにはEN71を参照にするのは不適當であること、新しいペンのみを対象とすることについては市場出荷時などもっと具体性がほしいというようなアドバイスを伺いました。これらの意見を、今後のJWIMAの技術委員会で検討したいとしました。

翌日のEWIMAの技術小委員会の中では、ISO安全キャップ、安全尾栓改制定の今後のタイムスケジュールやイギリス案に対する日本の意見の発表を行いました。フランスから再度、ISOを作った後にBS規格を削除してほしいという意見があった程度で、出席者から新たな意見は出ませんでした。ISOのイギリス委員でありプロジェクトリーダーでもあるMr. Rudermanが、オーストラリアの親族の洪水被害の支援のため会議を欠席しており、イギリスの進行状況は聞けませんでした。



東日本大震災 被災地支援活動

この度の東日本大震災によって被災された皆様に 心よりお見舞いを申し上げます。

3月11日に発生し、東北地方から関東地方にかけて甚大な被害をもたらした「東日本大震災」、被災地では懸命の復興努力が行われ、全国各地から被災者支援の手が差し伸べられました。日本筆記具工業会も会員の皆様のご協力を得て、被災地の子供たちに「筆記具類」の提供を行いました。

【筆記具類提供の考え方】

1. 学校の授業再開に向け、確実に被災地の子供たちの手に渡る方法を取る。
2. そのため、被災地の県教育委員会に直接支援物資（筆記具類）提供の準備があることを伝え、要請があればそこへ必要数量を届ける。
(対象地域：青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県)
3. 各県からの支援要請を集計し、会員各社提供可能数と調整のうえ、会員企業へ連絡、JWIMA集積所への出荷要請を行い、その後各被災地へ支援物資を配送する。
4. 流通への影響も考慮し、提供数量は各カテゴリー100,000本を限度とする。
5. 要請の来たものから出荷手配を行うが、5月末をもって一旦終了する。
6. 各会員企業が他から支援要請を受けた場合は、そちらを優先しても構わない。その場合、当初の提供可能数量に変更があれば事務局へ連絡のこと。
7. 色鉛筆に関しては、日本ヒューレット・パッド社が独自でぬり絵10,000冊を製作し、NPO法人を通じて被災地の避難所、保育園、障害者施設の子供たちに提供する活動を行うので、

そちらとコラボレートして提供する。

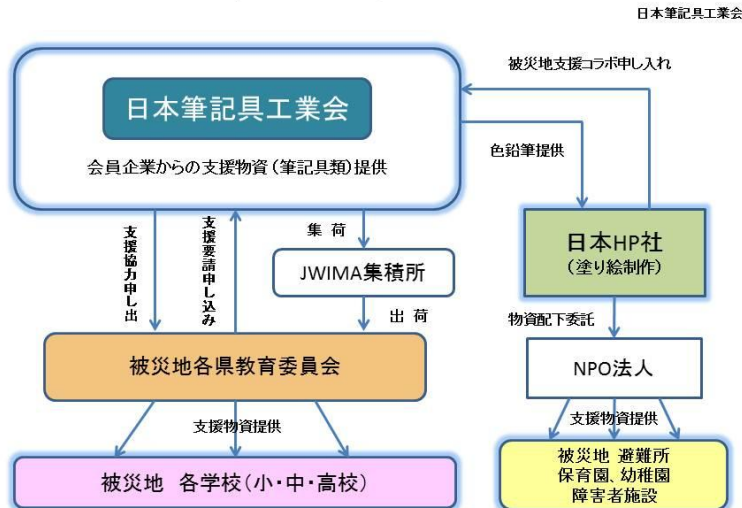
【活動結果】

- 3月下旬：会員企業への被災地支援協力のお願いと筆記具類提供可能数量調査を実施
- 4月上旬：提供可能数量集計結果（20社：約750,000点）
- 4月中旬：理事会での支援実施決裁、被災地各県教育委員会への筆記具類提供申し出
- 4月下旬：日本HP社との調整ならびに色鉛筆出荷要請
- 5月上旬：各県教育委員会からの支援要請集計ならびに会員各社への筆記具類提供依頼
- 5月中旬：提供筆記具類詰合せ作業ならびに出荷

- 支援要請のあった県：青森県、宮城県、福島県、千葉県
- 提供筆記具類数量（色鉛筆含む）：40,000点

その後、筆記具類を提供した各県や学校より丁寧なお礼状を頂戴し、また、経済産業大臣や東京都産業労働局長からも感謝状をいただきました。

東日本大震災被災地支援物資提供について



感謝状

日本筆記具工業会 殿

平素より、経済産業行政に対し御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

3月11日に発生した東日本大震災、そしてそれに続く東京電力福島原子力発電所の事故は、未曾有の大災害となっております。着の身着のまま避難した人々は、寒さの残る被災地において、生活必需品の十分な確保もままならない、厳しい生活を余儀なくされておりました。

このような中、貴団体を始めとする500を超える団体・企業の御厚意により、多くの支援が被災者の元へ届けられました。一本のローソクが明かりを灯し、一枚の毛布が寒さを凌ぐ手だてとなるなど、貴団体の支援は大きな力となって、被災地の生活を支えております。貴団体の、尊く、そして温かい思い遣りの気持ちは、人々の生活だけでなく、悲しみと不安で冷え切った心を優しく支え、温めたことでしょうか。

貴団体の多大な御協力に対し、改めて深く感謝申し上げます。

避難を余儀なくされた被災者は、まだまだ多くいらっしゃいます。復興に向けて、さらに困難な状況が生じることも予想されます。したがって、引き続き国民が心をついにし、真に実効性ある被災地支援を継続することが必要となっております。経済産業省も引き続き力を尽くしてまいります。貴団体のお力添えも必要不可欠です。貴団体におかれましては、引き続き、温かい御心遣いとともに御協力を賜りますようお願いいたします。

平成23年5月

経済産業大臣 海江田万里

第4回 技術交流会 開催

出展14社 参加200名超

2011 JWIMA 技術交流会

会員各社がビジネスベースで交流できるようにスタートした「JWIMA 技術交流会」ですが、今回で第4回目を迎えることになりました。本年は、工業会以外の文具業界の方にも見学に来ていただけるようご招待を行い、212名の方にご参加をいただきました。

出展いただいたのは下記の14社で、それぞれ得意分野での商品・技術の紹介をしていただきました。アンケート結果からは見学者・出展社とも満足度はたいへん高く、かなり熱心に質問や説明が繰り返されていました。会員外の招待者の反応も上々で、新たなビジネス交流に期待大との印象が得られました。

JWIMA 会長オープニング挨拶 ▶
技術交流会 見学風景 ▼



<2011 JWIMA 技術交流会 出展企業>

① 岩崎金属工業(株)	金属表面処理・印刷等の加工業
② (株) 大平	トランスファー プリマツ加工、シャープペンシルメカニズムのメーカー
③ オーバクス(株)	ペン先メーカー
④ オリエンタル産業(株)	鉛筆芯・色芯のメーカー
⑤ 北星鉛筆(株)	鉛筆・おが屑リサイクル商品のメーカー
⑥ (有)城南精機製作所	ボールペンチップ等金属精密加工業
⑦ (株) 千年	シャープペンシル用芯、替芯のメーカー
⑧ 司フェルト商事(株)	筆記具用ペン芯等のメーカー
⑨ テイボー(株)	複合素材、マーキングペン先メーカー
⑩ 東京金属工業(株)	ペンクリップ、リング等の加工業
⑪ 東洋繊維化工(株)	筆記具用中芯等のメーカー
⑫ (株)日本万年筆製造所	プレス加工によるペンクリップ・ペン先等のメーカー
⑬ ヒノデワシ(株)	消しゴム等樹脂加工のメーカー
⑭ 守屋彫刻工芸(株)	表面加工、柄付の加工業

ISO/TC10/WG18 ベルリン会議 出席報告

2011.06.20～23 ドイツ・ベルリンにて 報告：塩井恵子(国際標準提案事業委員長)

ISO/TC10/WG18 ベルリン会議（6月20～23日）に、ペンてる伊波氏とともに出席致しました。今回のメインテーマは安全キャップ、尾栓規格です。昨年4月にイギリスからISO規格をBS規格と同じにしたいというNWIP(新業務項目提案)が出され、投票の結果、昨年8月10日にBS規格をWD(作成原案)として活動を開始することとなりました。次の段階はCD(委員会原案)を今年8月10日までに登録することです。この登録には投票はなく、Expert(各国の専門家)のコンセンサスが必要です。会議の直前まで、イギリスはほとんどのペンにまで対象を広げると主張し、日本は14歳以下の子供向けペンに対象を限定すると主張して、意見は大きく隔たっていました。

会議の前日に、イギリスのMs. Sarah KellyとMr. Phelps(BSI)に会って意見交換を行いました。数人のイギリス人に質問したが人によって回答が異なり、BS規格の文章では規格の対象範囲が明確でないことを説明しました。Sarahは、Mr. Haysが分かりやすい実例と新しい提案を持ってきて詳しく説明すると言いました。

次に、フランスのMs. Desbois(BIC)に会いました。BICでは、BS規格の対象範囲はほとんど全てのペンであると解釈し対策を取ったということでした。EUには一般製品安全指令があるためイギリスだけの問題と考えることはできないが、BS規格に対しイギリス以外の国の意見は聞いてもらえないとのことでした。英国には筆記具メーカーが無くなってメーカーとしての意見が出ないことも問題で、日仏でメーカーとして協力



していききたいということでした。

会議当日は、やはり対象範囲が問題となりました。Mr. Haysは2本ペンを用意しており、1本は高価でもキャラクターの絵柄付きなので子供が使用するため、これも対象としたいという説明がありました。しかし、それもMr. Haysの個人的な意見に過ぎず、とにかく文章にして協議することが必要と考え、対象範囲の解釈の附属書を付け加えることを提案して出席者の同意が得られました。その後、尾栓に議論が移り、日本側から事故例はたった2件であることを述べたところ、Mr. Haysから新たな提案がありました。安全尾栓規格は指摘の通り重要性は少ない。もしBS安全キャップ規格のままのISO規格を認めてくれるなら、ISOができた時点でBS安全キャップ規格を取り消す。またBS尾栓規格はISOにしないだけでなく、取り消してもよい。ただし、個人で決められることではないので確約はできないということでした。予想外の提案であったため結論は出さず、各国に持ち帰り検討となりましたが、CD締切日は8月10日なので日本でもどう扱うか早急な決定が必要となります。



平成23年 第1・2 四半期委員会・部会活動

<総務 関係>

- 1.24 書育推進協議会運営委員会
 - ・長崎大学「書育&音育」イベント開催報告
 - ・第5回書育実践研究会報告
 - ・「書育」会報 NO.4 の発行について
 - ・書育推進協議会HP 立ち上げについて
- 2.28 書育推進協議会運営委員会
 - ・長崎大学「書育&音育」報告
 - ・書育実践賞応募状況ならびに審査、表彰・発表会について
 - ・次年度計画についての協議
- 3.16 総務委員会
 - ・H22 年度決算見通しと H23 年度予算案について
 - ・定款一部変更の件
 - ・2011JWIMA 技術交流会について
 - ・「書育」活動報告について
- 3.31 書育推進協議会運営委員会
 - ・書育実践賞の審査状況について
 - ・次年度計画についての協議
- 4.6 総務委員会
 - ・H22 年度事業報告書案及び収支決算案について
 - ・H23 年度事業計画案及び収支予算案について
 - ・役員任期満了改選について
 - ・H23 年度第1回理事会開催について
 - ・第10回通常総会について
 - ・その他（総会懇親会、中国制筆協会／国際フォーラム、東日本大震災被災地支援物資）
- 5.30 書育推進協議会運営委員会
 - ・書育実践賞審査結果及び授賞式・報告会について
 - ・H23 年度「実践研究会」について
 - ・役員改選について
 - ・第2回通常総会について
- 6.15 総務委員会
 - ・秋～年末の行事計画について
 - ・2011JWIMA 技術交流会について
 - ・新規会員加入について
 - ・その他（東日本大震災被災地支援報告、書育推進協議会 H23 年度事業計画案報告）

<調査研究・広報 関係>

- 2.2 調査研究・広報委員会
 - ・「万年筆」お役立ち情報について
 - ・2011JWIMA 技術交流会について

- 3.8 調査研究・広報委員会
 - ・「万年筆」お役立ち情報について
 - ・2011JWIMA 技術交流会について
- 4.26 調査研究・広報委員会
 - ・2011 技術交流会出展社説明会について
 - ・スタッフ行動予定表について
- 6.28 調査研究・広報委員会
 - ・2011JWIMA 技術交流会の反省について
 - ・H23 年度活動計画について
 - ・その他（JWIMA 通信 33号）

<流通 関係>

- 1.27 お客様相談窓口連絡会
 - ・各社お客様対応事例について
 - ・お役立ち情報（マーケティングパン編）の見直しについて
 - ・その他（インクジェットはがき目詰り調査）
- 3.11 お客様相談窓口連絡会
 - ・各社お客様対応事例について
 - ・お役立ち情報（マーケティングパン編）の見直しについて
- 6.23 お客様相談窓口連絡会
 - ・各社お客様対応事例について
 - ・お役立ち情報（マーケティングパン編）の見直しについて

<技術国際 関係>

- 1.20 マーケティングペン部会
 - ・ISO 化：安全キャップ・安全尾栓の日本案について
 - ・ライノ用マーケティングパン業界基準案について
 - ・筆ペンの各社製品状況の確認について
- 2.17 製品安全小委員会
 - ・EWIMA 技術委員会の報告について
 - ・筆記具安全基準について
 - ・安全関連情報について
- 3.3 事務用修正液部会
 - ・JIS S 6055（事務用修正液）の見直しについて
 - ・修正テープ規格化の検討
- 3.14 技術国際委員会（電子メール会議）
 - ・H22 年度下期各部会活動報告ならびに H23 年度活動計画について
 - ・国際標準提案事業活動報告
- 3.23 鉛筆・シャープペンシル合同部会
 - ・新レコード式面線機の部品廃止について
 - ・しん濃度測定器について
- 4.22 マーケティングペン部会
 - ・筆ペンの業界基準作成について
 - ・BS 7272-1,2 の ISO 化について

5.19 製品安全小委員会

- ・BS 7272-1,-2 の ISO 化に関する日本側の意見について
- ・筆記具安全基準について
- ・安全関連情報について

6.14 事務用修正液部会

- ・修正テープ業界基準案について

・JIS S 6066 (事務用修正液) 改正原案作成分科会

<全文協との共催 関係>

2.21 合同知的財産部会

6.3 合同知的財産部会

(以上)

お知らせ

- JWIMA ホームページのお役立ち情報に、新たに「万年筆編」が加わりました。



【構成】

- ・万年筆の歴史
- ・万年筆とは(万年筆の種類、書けるしくみ)
- ・万年筆の使い方(初めての方へ、持ち方、インキの入れ方、お手入れ)
- ・ペン先の種類、インキの種類
- ・万年筆 Q&A



詳細年表はマニア必見です！是非、一度ご覧下さい。

http://www.jwima.org/mannehitsu_web/index.html

- 秋から年末にかけての行事日程が決まりましたのでご紹介いたします。内容の詳細については、現在企画中です。順次ご案内していきます。

★ 10/1 (土) 第8回会員親睦ゴルフコンパ
(霞ヶ浦国際ゴルフコース)
今回はこれまでの実績からハンデを計算し、HC制で行います。(初参加の人は自己申告してもらい、調整を加えます。)

★ 10/25 (火) 会員研修会
(浅草橋・ベルモントホテルを予定)

★ 11/16 (水) 優良工場見学会
(今回は、山梨方面を予定)

★ 12/1 (木) 年末講演会・懇親会
(上野精養軒にて、講師は現在交渉中)

- JIS S 6061:2010(ゲルインクボールペン)及びワイルドの英訳版が、この度、財団法人規格協会から発行されましたのでご案内いたします。
英訳冊子 本体価格：6,825円(税込)

※ JWIMA 経由で購入する場合は 10%引きとなります。

- 書育推進協議会のホームページが新しく立ち上がりました。
<http://shoiku.org/>

同協議会のいろいろな活動紹介とともに、「手書きを楽しむ」のコーナーでは「手書き川柳」や「創作漢字」の募集も行っています。是非、アクセスしてみてください。

- 書育フォーラム 2011 を開催します。

日時 平成23年8月17日(水) 14:30~
場所 女性と仕事の未来館(JR田町駅3分)
主催 書育推進協議会

内容 ①書育実践賞 授賞式・発表会
②講演会

テーマ：いま、「書くこと」に求められていること ~新学習指導要領における「書くこと」~

講師：吉田裕久氏(広島大学大学院教授/前全国大学国語教育学会理事長、現小学校学習指導要領作成協力者、常用漢字表改訂に伴う学校教育上の対応に関する専門家会議主査等)

参加費 1,000円(資料代として)

※是非お誘いあわせのうえご参加ください。

2010年の出荷・輸入・輸出 =年間=

繊維・生活用品統計(旧雑貨統計)より (国内向け販売と輸出向け販売を含む)

金額:百万円

出荷	単位	2010年間		2009年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	461,156	26,367	400,803	23,740	15.2%	11.1%
ボールペン(水性)	千本	906,274	34,744	785,797	30,435	15.1%	14.2%
マーキングペン	千本	714,410	33,600	647,073	31,079	10.4%	8.1%
シャープペンシル	千本	157,396	13,733	150,027	13,805	4.9%	-0.5%
鉛筆	G	1,715,179	5,860	1,612,781	5,572	6.3%	5.2%
シャープしん	千本	2,851,012	4,038	2,569,842	4,062	10.9%	-0.6%
修正液	千本	31,521	2,505	33,281	2,716	-5.3%	-7.8%
修正テープ	千個	72,003	6,353	65,505	5,534	9.9%	14.8%
クレヨン・パス	千本	91,713	1,643	103,705	1,657	-11.6%	-0.8%
水彩絵の具	千本	47,647	2,130	48,337	2,186	-1.4%	-2.6%
			130,973		120,786		8.4%

日本貿易統計より(抜粋)

輸出	単位	2010年間		2009年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	192,377	6,667	158,904	5,737	21.1%	16.2%
ボールペン(水性)	千本	619,415	25,358	574,153	24,380	7.9%	4.0%
マーキングペン	千本	337,876	13,210	319,313	12,452	5.8%	6.1%
シャープペンシル	千本	93,402	5,547	87,733	5,278	6.5%	5.1%
万年筆	千本	6,038	874	5,032	821	20.0%	6.7%
製図用ペン	本	54,280	4	8,640	1	628.2%	682.4%
以上のセット品	千個	833	108	918	135	-9.2%	-18.9%
黒芯鉛筆	Kg	106,261	295	73,415	217	44.7%	35.2%
色芯鉛筆	Kg	53,002	196	51,164	187	3.6%	4.0%
修正液	千個	23,000	1,595	24,092	1,735	-4.5%	-8.1%
修正テープ	個	352,277	39	843,591	58	-58.2%	-32.8%
			53,893		51,575		4.5%

日本貿易統計より(抜粋)

輸入	単位	2010年間		2009年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン	千本	217,439	5,733	238,643	5,762	-8.9%	-0.5%
マーキングペン	千本	162,813	2,832	163,604	2,503	-0.5%	13.1%
シャープペンシル	千本	43,609	1,358	42,405	1,370	2.8%	-0.8%
万年筆	千本	2,289	1,074	1,747	1,045	31.2%	2.6%
製図用ペン	本	5,830	7	11,785	12	-50.0%	-38.1%
セット品	千個	1,269	97	1,049	102	21.1%	-4.1%
黒芯鉛筆	Kg	685,618	648	610,452	540	12.3%	20.0%
色芯鉛筆	Kg	1,450,508	1,138	1,191,713	819	21.7%	39.0%
修正液	千個	2,411	63	2,399	72	0.5%	-12.5%
修正テープ	千個	56,749	1,972	48,768	1,761	16.4%	12.0%
			14,921		13,986		6.7%